

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和4年 6月 21日	
静岡県知事 殿	
提出者	
住所 東京都大田区下丸子3-30-2	
氏名 キヤノン株式会社	
ファシリティ管理本部	
ファシリティ推進センター センター所長	
関口 次郎	
電話番号 03-3758-2111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	キヤノン株式会社 富士裾野リサーチパーク
事業場の所在地	静岡県裾野市深良4202
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	業務用機械器具製造業（周辺機器の研究・開発）
事業の規模	会社資本金 174,762百万円
従業員数	事業所 1,127人（正社員1,011人、それ以外の職員55人） （キヤノン株式会社 全従業員数 25,713人）
特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	特別産業廃棄物処理フロー 電子写真技術などの研究開発で発生した廃棄物を下記の通り処理 引火性廃油【再資源化】 排出 委託運搬 委託中間処分（焼却） 委託最終処分（サーマルリサイクル） 廃強アルカリ【再資源化】 排出 委託運搬 委託中間・最終処分（中和） 土木用資材 汚泥（有害）【熱回収】 排出 委託運搬 委託中間処分（焼却） 委託最終処分（サーマルリサイクル）

(日本産業規格 A列4番)

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項	
(管理体制図)	
処理計画書の作成部署：裾野施設環境課	
処理計画の総括責任者：阿部 亮太	

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項				
現状	【前年度(令和3年度)実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥(有害)
	排出量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	(これまでに実施した取組) 廃棄物分科会を立ち上げ、廃棄物実績を事業所内で共有し、 職場を巻き込んだ廃棄物削減施策を検討			
計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥(有害)
	排出量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物分科会を通じた具体的な削減施策の立案、実施			

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項	
現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) MEK、キシレン、廃試薬
計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物分科会を通じた具体的な削減施策の立案、実施

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

現状	【前年度（令和 3 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）			
計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）			

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

現状	【前年度（令和 3 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
（これまでに実施した取組）				
計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
（今後実施する予定の取組）				

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項				
現状	【前年度（令和 3 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	自ら埋立処分を行なった特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）			
計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）			
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
現状	【前年度（令和 3 年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥（有害）
	全処理委託量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	優良認定処理業者への処理委託量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	再生利用業者への処理委託量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）			
廃棄物分科会を立ち上げ、廃棄物実績を事業所内で共有し、 職場を巻き込んだ廃棄物削減施策を検討				

計画	【目標】			
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油	廃強アルカリ	汚泥(有害)
	全処理委託量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	優良認定処理業者への処理委託量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	再生利用業者への処理委託量	111.7 t	186.0 t	0.00003 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物分科会を通じた具体的な削減施策の立案、実施			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度(令和3年度)実績】			
	特別管理産業廃棄物排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	297.7 t		
事務処理欄	(今後実施する予定の取組等) 電子マニフェスト運用業者と契約済みであり、今後も継続			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) 欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) 欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(以下「令」という。)第6条の14第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量(ポリ塩化ビフェニル廃棄物(令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。)を除く。)を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等(情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。)について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「 」を記入すること。
- 9 欄は記入しないこと。